

文化学園服飾博物館だより

第4号

1991.4.1

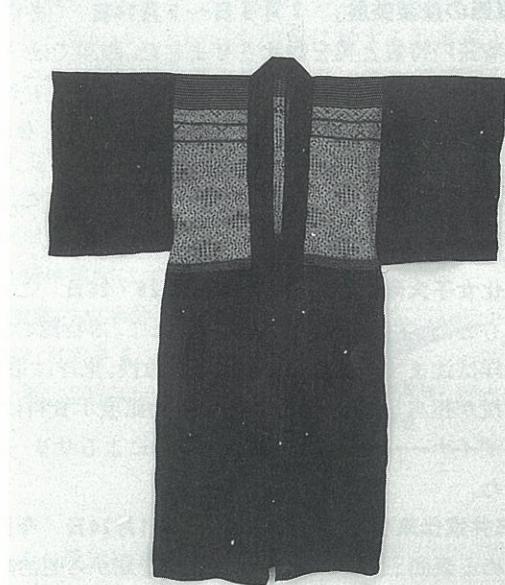
新収資料紹介

'90年度の新収資料の中からローブ・ア・ラングレーズとこぎん刺しの着物を紹介いたします。



ローブ・ア・ラングレーズ 1760年頃 幅150cm

花柄とレース模様のスピタルフィールド(絹織物の生産地として知られているロンドン郊外の地名)製のグリーンの紋織物を用いたイギリス風のローブ。フランス風ローブに対して背襍のないすっきりしたシルエットが特徴である。布地は1720~25年頃のものであるが、ドレスは1760年頃にボストンで仕立てられたといわれる。また、珍しいことに共布の靴が付属したいへん貴重な資料といえる。スタマッカーはこのドレスとは別に収集した資料である。



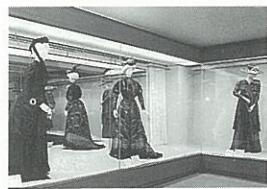
こぎん刺し着物 明治時代 青森県津軽地方 幅125 術58cm

こぎん刺しは青森県津軽地方で江戸時代末から明治時代中期にかけて発達した刺し子の一種である。衣服の補強や保温のために行われ、藍の麻布の織目にしたがって白の木綿糸で刺していく。いくつかの基本となる刺し方があり、組み合わせによって多数の複雑な模様が考案された。このこぎん刺しの着物は緻密な麻布が用いられ、肩に数本の細い横縞があり、前は三段、後ろは二段の模様で構成されているところから、西こぎん(弘前を中心にして西の地域)の特徴を示している。

'90年度活動報告

◇展 示◇

『館蔵服飾の美展』 3月5日～4月14日 3つの展示室を「西洋」「日本」「東洋」に分け、古今東西の服飾の美を幅広く取り上げました。西洋はルイ16世時代から1910年までのドレスと服飾に関連する装身具など、日本は装束類、武家服飾、小袖、能装束など、東洋では、アジアの多様な民族服飾の中から、中国清代、蒙古、台湾、インドネシア、インドの服飾を選び展示しました。



『館蔵染織の美展』 5月1日～6月22日 この展示では、技法を中心に世界各地の染織文化を紹介し、比較鑑賞することを目的に、展示室を「染」「繡」「織」に分けました。染では、日本の友禅染めや絞り、西洋のプリント、インドの更紗、絞り、インドネシアのバティックなど、繡では各地域の様々な刺繡技法を、織は、各地域の絣、西洋の紋織物、日本の唐織などを取り上げました。



『東西の着装美展』 7月9日～9月14日 「まく・しめる・ふくらませる」のサブタイトルで、西洋と東洋の着装の特質と美を対比させました。西洋では「締める」と「脹らませる」をポイントに、18世紀後半から20世紀初めのドレスのシルエットの変遷を、コルセット・クリノリン・バスルなどの下着やドレスの内部構造の工夫を紹介しながら展示し、東洋では、一枚の布を身体に「巻く」ことに焦点をあて、インドとインドネシアを中心に、インドのサリー、ドゥティー、インドネシアのサルン、カイン・パンジャン、イカットなどをその着装方法とともに取り上げました。



文化女子大学夏期公開講座 7月25・26日 この講座は同展示のテーマのもと、大学の公開講座の一つとして、博物館の協力で行われたものです。西洋は辻ますみ・文化女子大学助教授、東洋は道明三保子・文化女子大学教授が担当し、それぞれ講義と博物館展示資料による着装の解説があり、デザイナー・石川悦子さんとの協力によるサリーの着付の実演も行われました。



『三井家伝来小袖展』 10月15日～11月24日 今回の特別展は、当博物館所蔵の資料の中でも重要な位置を占める豪商三井家旧蔵の江戸時代後期から明治時代にかけての小袖を、開館以来初めて一堂に紹介しました。円山派絵師の下絵のある意匠と繡技にすぐれた芸術性豊かな小袖を中心に、江戸時代後期の武家風小袖や子供用晴着、明治時代の小袖など、約60点を展示しました。会期中には、三笠宮崇仁殿下のご来館を初めとし、デザイナーのピエール・カルダン氏、三井家ゆかりの方々の来館もありました。



『第5回ソビエト連邦民族衣裳展—ウクライナ共和国—』 '90年12月8日～'91年2月16日 5回目を迎える今回のソ連展は、ソ連の南西部に位置するウクライナ共和国からお借りした民族衣裳の展示です。展示協力のためにウクライナから、ロスソシンスカヤ・ウクライナ民衆装飾藝術国立博物館館長を迎えて、開催準備が進められました。一般公開に先立ち12月7日に、後から来日されたヴルブルフスカヤ・ウクライナ共和国文化次官、エフィメンコ・ソ連文化省付属全ソ民衆藝術センター部長も迎え、オープニングパーティーが開かれ、また12月10日には、文化女子大学講義室において、ヴルブルフスカヤ文化次官による「ウクライナの文化」と題した記念講演会が行われました。



◇収 集◇

'90年度の資料収集総点数は278点(購入153点、寄贈125点)です。主な購入資料はフランス18世紀のローブ(1)、フィリピンの民族衣裳と染織品(92)、アフリカのラフィア(絞り布)(4)、こぎん刺しの着物(3)などです。寄贈者および寄贈資料は次のとおりです。

■：インドネシア間道裂(1)、文化服装学院：アイヌの飾り刀、袋物他(10)、■：フィリピンの裂(2)、■：フィリピン民族舞踊衣裳(3)、■：インド、イラン染織品他(33)、■：ウクライナ共和国民族衣裳(2)、■：昭和初期のドレス、着物、羽織他(28)、■：フランス製ドレス(1)、■：フランス製子供服他(6)、■：ワンピース、コート他(6)、■：長着、羽織、子供用着物他(19)、■：小紋型紙(1)、■：片縫模様小袖(1)、■：『織物集覧』(1)、■：長着、羽織、帯他(10)、■：明治時代のドレス(1)
()内は点数

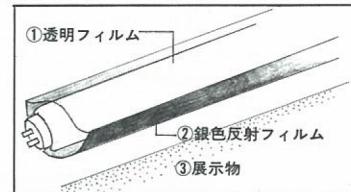
資料収集にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。敬称は略させていただきました。

◇展示ケース内照明の改善◇

より快適で優れた展示環境をめざして、展示ケース内の照明に対して2つの改善を行いました。

一つめは、以前から観覧者からあげられていた「寂しい」「冷たい」といった印象に対する改善策として、従来の昼白色螢光灯を電球色螢光灯に替えました。この螢光灯は色に温か味があり、低い照度でも明るく感じるという特性をもっています。

二つめは、三井家伝来小袖展を機会に照度を下げたことです。染織品は極めて光に弱く、我国では一般に100ルクス以下、海外では50ルクス以下が適正とされ、植物染料による赤色系は30ルクス位が望ましいといわれています。照度の調整には切換えが簡単な調光器が知られていますが、今回は光を反射するフィルムのついたシートを用いて、光源の面積を減らすと同時に間接照明にするという方法をとりました。(右図) この結果それまでの照度の約半分、水平面で110ルクス、垂直面で30ルクスという値を得ることができました。特に重要な展示品には、シートを2枚ずらして重ね、更に20%ほど照度を下げる工夫をしました。



◇資料の館外貸出など◇

'90年度の博物館資料の館外貸出、特別観覧、撮影許可、フィルム貸出は次のとおりです。

○資料貸出 7件17点

主な貸出先と貸出資料 東京都庭園美術館：アール・デコのドレス(2)、オリエント美術館：エジプトのミイラ包み布(4)、ポーラ文化研究所：18世紀のフランス男子服(3)、柏そごう：19世紀のドレス(5)、渋沢資料館：渋沢栄一の爵位服(1)
()内は点数

○特別観覧 4件9点 ○撮影許可 4件11点 ○フィルム貸出 19件78点

北竜湖資料館案内

'90年4月29日、文化学園北竜湖資料館が開館いたしました。これは旧城下町・飯山町の著名な地主階級の旧家である牧野邸を北竜湖山荘の隣に移築したものです。建物は江戸時代後期の町家であり、茅葺屋根の均整のとれた美しい姿をしています。復元にあたっては一部を展示室に改造し、服飾博物館所蔵の日本各地の郷土玩具約800点と宮家旧蔵の書、蒔絵の箱、盃などを展示しています。



運営・専門委員紹介

'91年度の博物館運営委員・専門委員が次のように決まりました。

運営委員 青木伊津子(文化服装学院)・石川昌宏(文化学園本部)・居宿昌義(文化女子大学)

井上喜久子(文化服装学院)・熊田敏夫(文化女子大学)・中山明凱(文化出版局)

成瀬信子(文化女子大学)・古田隆吉(文化服装学院)・宮沢正次(文化学園事業局)

専門委員 西洋担当:石山 彰(文化女子大学)・大浜治子(文化服装学院講師)・中村祐三(文化服装学院) 日本担当:遠藤 武(文化女子大学名誉教授)・佐藤泰子(文化女子大学)

※敬称略

'91年度展示案内

『服飾～東と西～』 3月11日～5月24日

服飾入門ともいえる展示です。「日本の服飾」では前期に武家服飾と庶民の服飾を、後期に小袖を展開します。「西洋の服飾」では18世紀から1930年代に至るまでスタイルの変遷を探ります。「東洋の服飾」では、中国、インドを中心にアジアの代表的な服飾を展示します。 (4月15日～27日は休館)

『民族服飾の体系』 6月10日～10月4日

去る3月20日に急逝された小川安朗・文化女子大学名誉教授のご功績を讃え、長年にわたる研究とフィールド・ワークをもとに、世界各国の民族衣裳について、巻垂型、腰巻型といった服飾形態に、気候風土、民族性などの服飾環境を交えて様々な角度から探り、体系づけていきます。(8月1日～9月16日は休館)

『特別展 宮廷の装い』 10月23日～11月22日

明治時代から昭和初期にかけて宮中で着用された伝統的な装束と、礼装用の洋服を中心に紹介します。主な展示品は昭憲皇太后(明治天皇妃)の大礼服、中礼服、大正天皇の御祭服、賀陽宮家旧家の束帶と唐衣裳(十二单)、文官大礼服、有爵者大礼服など。

『特別展 第6回ソビエト連邦民族衣裳展』 12月13日～2月21日

今回は、中央アジアの南西部に位置し、カスピ海に面し、イランに国境を接したトルクメン共和国の民族衣裳を紹介する予定です。 (12月21日～1月4日は休館)

※都合により一部変更することもありますのでご了承下さい

利 用 案 内

[開館時間] 平日:午前10時～午後4時30分／土曜日:午前10時～午後3時(入館は閉館の30分前まで)

[休館日] 日曜日・祝日・年末年始・夏期休暇／学園の創立記念日(6月23日)／11月5、6日／展示替えの期間

[入館料] 一般300円・学生200円(20名以上の団体は一般200円・学生150円) 特別展は別料金

※文化学園の職員・学生、及び職員が同伴する方は無料